

# 合格体験記

横浜国立大学大学院

国際社会科学部国際関係法専攻

平林勉

1. はじめに 志学院では大学院英語について本当にお世話になりました。大学院に進学したい、だけど英語ができないから諦めようと自分自身思っていました。こうして合格できたのも志学院の英語のカリキュラムが非常によく出来ていたからだ。今になって思います。

2. 授業について 私の最初の英語についての学力は中学3年～高校1年生くらいのレベルであったと思います。(恥ずかしながら purpose・thus などの単語の意味が分かりませんでした。) この点、通常の予備校などでは一定のレベルにあることを前提に授業が展開される。志学院では1対1の授業ですから、自分の能力に合ったところから始めることができ、とても助かりました。志学院の授業は毎週英文和訳(A4で2～3ページくらい)を課題として出され、やってきた和訳分を発表し、その添削を受けるというものでした。間違えてしまった部分、よく分からなかつ

た部分、そして日本語としてわかりにくい訳については一緒に和訳をして頂き、そこに登場する文法事項や構文等を丁寧に教わりました。このような授業は大学院入試の英語の対策としては一番効率が良いのではないかと思います。なぜならば、大学院入試の英語はそのほとんどが英文全訳だからです。学習の初期から英語をどうやって「分かりやすい」日本語にするのか、という部分を徹底的に鍛えてもらったことで、それが体に染みつき、入試においても、「どういう意味か」というよりも「どう表現するか」の部分に重点をおいた訳を心がけることができたのだと思います。

3. 勉強方法について 勉強方法については、先生の言う通り、とにかく「反復・継続」しました。これに尽きます。先生からは「課題として出されたプリントをとにかく読みなさい、それで絶対に大丈夫だから！」と言われたので、配布されたプリントを何度も何度も読み込みました。具体的には、配布されたプリントが総計118枚で、1枚につき大体50～60回は読み込みました。この時、単語の意味や構文で不明なところが見つかったら、すぐに質問するようになっていました。これで十分合格レベルに達します。志学院のカリキュラムは勉強の範囲の確定という意味におい

でも非常に役立ちました。

4. 終わりに 塾を選ぶ際に色々比較していたのですが、志学院は授業料が安く自分に合ったレベル・ペースで受講できそうだと感じたのが最終的な入塾の決め手です。大学院入試の英語は本当に難しいものです。でも実際受講してみて、講義は分かりやすく、受験校の徹底的な過去問対策などカリキュラムが充実していたという事です。勉強を進めていく途中、「もうだめだ・・・」と思うことがありました。自分は大学院に行く能力がないんじゃないか、と不安に思うこともありました。しかし、そのような時も温かく励ましてくれた志学院の先生方、後押しをしてくれた両親に本当に感謝しています。あきらめずに頑張れば必ず合格します。これから大学院を目指す方も頑張ってください。